毎日新聞の誤報記事

こちらが後で捏造と分った1984.1.24夕刊の毎日の記事です。
内容をかいつまんむと下記の様になります。
「太子が女性ふうのなまめかしい姿で登場する「日出処の天子」が中・高生の間で人気を呼んでいるが、その内容を知った法隆寺は「わが国の仏教信仰に尽力し、寺の信仰の対象である太子を冒とくするものだ」とカンカン」
「これに対し作者の山岸凉子さんは「梅原猛さんの法隆寺に関する著作物などを参考に、私のイマジネーションで描きました。だれもが知っている聖徳太子の意外性を狙ったもの。史実だけでは漫画はできません。」と言っている。」

毎日新聞

法隆寺 カンカン

「えっ、これが聖徳太子?!」

少女向け漫画、釈明求める

「信仰の対象を冒とく」

聖徳太子をモデルにした少女向けコミック雑誌で、太子が女性ふうのなまめかしい姿で登場する（単行本）「日出処（ひいづるところ）の天子」（山岸凉子作）が中、高生の人気を呼んでいるが、その内容を知った奈良県斑鳩町、聖徳宗総本山法隆寺（大野可圓管長）は、「わが国の仏教興隆に尽力し、寺の信仰の対象である太子を冒とくするものだ」とカンカン。近く同宗派の布教などについて話し合う教学会を開き、出版元の東京千代田区西神田三の六の四、白泉社（梅村義直社長）への抗議を含め対策を話しあう。

「日出処の天子」は同社発行の月刊コミック雑誌「ラ

「日出処の天子」に登場する聖徳太子＝月刊「ララ」84年2月号より

ラ」に五十五年四月号から連載、現在も連載中で、五十五年八月には単行本化され、これまでに八巻刊行された。十数万部が売れたロングセラー。

作者の山岸さんは、ナゾめいた幻想的なタッチの登場人物の描写が持ち味で昨年講談社漫画賞を受賞、中、高校の女生徒を中心に、若いOLまで圧倒的な支持を得ている人気女流漫画家。

漫画は、古代史を舞台に、聖徳太子が、蘇我・物部両氏の権力闘争の中で、呪力と才気で、次第に人望を集めていくというストーリーだが、若い女性の凛立ちの太子と、蘇我馬角（えみし）とのラブシーンなども描かれている。

法隆寺は、この雑誌、単行本を取り寄せ、内容を検討した結果、史実とフィクションが混同し、興味本位過ぎるーなど、寺の関係者から批判が続出、「放置できない」と意見が一致した。

高田珠俊・同寺執事長は「聖徳太子は、私たちの信仰の対象であるばかりか、十七条憲法を制定、仏教興隆に尽くした歴史的にも偉大な人物。中学生ら多感な少女向けの雑誌に、同性愛の太子を連載、創った太子像を植えつけられては困る」と強い「出版社に釈明を求めたい」と話している。

史実だけでは漫画はできない

これに対し作者の山岸凉子さんは出版社を通じ「梅原猛さんの法隆寺に関する著作などを参考に、私のイマジネーションで描きました。だれもが知っている聖徳太子の意外性を狙ったもの。史実だけでは漫画はできません」と、言っている。

小森正義・白泉社「ララ」編集長の話　史実をベースにはしているが、漫画だからフィクションは入る。同性愛シーンなど、少女向けコミックでは常識だし聖徳太子への冒とくなどとは考えていない。